

生活単元学習 学習指導案

授業日時:令和8年1月31日(土)

2校時(10:00~10:40)

対象:中学部1年

場所:中1教室

授業者:T1 上久 人未

T2 近藤 堪太

T3 武田 陽子

1 単元名・題材名

「3年生ありがとう!! ~感謝の気持ちを込めた花束と手紙づくり~」

2 児童生徒の実態

クラス・グループの実態

本学級は、女子3名・男子3名の計6名で構成されている。生徒の手指の巧緻性や発達段階、指示理解の速度や方法には大きな差がある。また、一つ一つの活動に対して、意欲的にスピード感をもって進める生徒や、じっくり丁寧に取り組む生徒等、個々の特性を活かしながら学習を行っている。

個々の生徒の実態は次の通りである。

<p>A:ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 SA4歳(R7.2) 太田ステージⅢ-2(R7.6)</p> <ul style="list-style-type: none">・友達への言葉かけや手伝い等、積極的に周囲に関わろうとする姿が多く見られる。・制作活動への興味関心は高く、活動に入ると集中して取り組む姿がある一方で、思いついたことを素早く形にしようとするため、作業の丁寧さにばらつきが見られ、仕上げの精緻さには支援が必要な場面も多い。・手指の巧緻性や力加減の調整が難しく、細かな貼り付けでは粗さが出ることもあるが、教員が補助すると細部まで丁寧に組み立てることができる。・制作に没頭すると贈る相手や目的を意識し続けることが難しいため、教員が活動の意図をこまめに伝え、相手への感謝の気持ちを表す制作へとつなげていく支援が必要である。
<p>B:ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査 SA3歳2か月(R7.2) 太田ステージⅠ(R7.6)</p> <ul style="list-style-type: none">・環境を把握したり活動内容を理解したりするまでに時間がかかるが、一度理解できると自分のペースで最後までやり遂げようとする。・制作活動に前向きに取り組もうとする姿があり、貼る・切る等の操作には援助が必要な場面もあるが、扱いやすい素材では主体的に活動する場面が見られる。見本を示すことで、どのように作ればよいかをつかみながら活動することができる。・活動への導入は、安心できる関わりの中で促すとスムーズで、視線や指さし、単語によって意思を示すことができる。工程は一つずつ丁寧に段階提示すると理解が進み、教員の支援を受けながら手順に沿って制作を進めることができる。・贈る相手や制作の意図は継続して伝え、相手への気持ちを表す制作へとつなげていく支援が必要である。
<p>C:ADS S-M 社会生活能力検査 6歳5か月(R7.2) 太田ステージⅢ-2(R7.6)</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の役割を理解し、気づいたことを友達に伝えたり、難しいところを教員に確認したりしながら役割を果たすことができる。・見通しが崩れたり、理解ができなかったりすると不安定になりやすいが、スケジュールや工程カード、タイムタイマー等の視覚的な手がかりや、短い言葉や箇条書きの指示があると理解しやすく、落ち着いて活動に取り組むことができる。・手指操作は概ね安定しており、見本を手がかりに多様な作品づくりに取り組むことができる。・相手を意識した選択や表現は難しい場面があり、自分の好みを優先しやすい。贈る相手の好みを制作に表現することを意識し続けられるように、教員が活動の意図や目的を繰り返し伝え、相手への気持ちを表す制作へとつなげていく支援が必要である。
<p>D:発達障がい S-M 社会生活能力検査 9歳4か月(R7.1) 太田ステージⅣ-後(R7.6)</p> <ul style="list-style-type: none">・活動への意欲が高く、制作場面では自分から積極的に取りかかり、最後までやり遂げることができる。また、周囲への配慮や援助行動が自然に出る場面もある。・写真撮影やタブレット操作等の手順理解もできており、活動によってはモデル役を担うこともある。・感じたことを文章で詳しく表現することには難しさがあり、簡単な単語での表出が中心となる。しかし、活動の目的や贈る相手への思いを、短く分かりやすい言葉で繰り返し伝えていくことで、「誰のために作るのか」という意識を保ちながら制作に取り組む姿へとつなげていくことができる。
<p>E:知的障がい(対象生徒) S-M 社会生活能力検査 9歳6か月(R7.4) 太田ステージⅢ-2(R7.6)</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動「自分を知らう」シートには「最後まで諦めずにやり遂げる大人がかっこいい」と記載しており、本人としても活動をやり遂げたいという意欲を内在させている。 ・手指の巧緻性が高く、道具の扱いも正確に理解している。 ・細かい作業が長時間続くことや、活動の見通しが曖昧な状況では不安が高まりやすいものの、経験を重ねる中で不安を調整しながら参加する力が育ってきている。 ・「誰かのために」という相手意識が明確になると粘り強く取り組む姿が見られる。 ・分からないことを質問したり、手順を確認したりして作業を進めることができ、必要な支援を自ら求めながら活動に参加することができる。
<p>F:ASD S-M 社会生活能力検査7歳1か月(R7.4) 太田ステージⅢ-2(R7.6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かな環境で力を発揮し、繰り返し行う作業を得意としている。 ・制作活動への関心が非常に高く、色彩や配置に対する感覚が優れており、一つ一つの工程を丁寧に積み重ねることで、美しい作品を生み出す力を持っている。 ・自発的に文章を構成することには難しさがみられる一方で、教員が短い確認的問いかけ(例:「こういう感じかな?」「〇〇という気持ちだったのかな?」)を段階的に行いながら意味をすり合わせることで、内面にある豊かな思いを、本人なりの表現として文章化することができる。

3 単元設定の理由

中学部生活が始まった本年度、これまでと環境が大きく変わる1年生が、自分の力で学びを進められるように、「見通しをもつ・選択する・振り返る」を生活単元学習の柱として大切にしてきた。とりわけ、本学級では生徒の興味・関心を起点に、屋外での体験や仲間づくりを重視して学習を組み立ててきた。学校探検を通した身近な植物の採集や、みんなで買い物に出かけて花や野菜の苗を選ぶ活動、ペアでの植え替え等を行い、季節の変化に応じた理科的な学び(夏の植物、実のなる植物、秋の花等)を取り入れて発展させてきた。これにより、「摘む活動」から「育てる活動」へと学習が転換し、観察・世話・記録を通して見通しと役割の共有を深めた。さらに、「育てる活動」から「ものづくりの活動」へと展開し、調理や作品化に取り組んだ。食べることが好きな生徒にとっては、初めは「自分のため」に調理する学びであったが、仲間と一緒に作って食べる経験を通して「自分と仲間のため」へと広がり、育てた野菜を家庭に持ち帰ることで「家族に喜んでもらう」という相手意識へと発展した。その上で、学習の成果を形に残してより多くの人へ届ける手段として、押し花づくりを位置づけてきた。押し花づくりは、初めは電子レンジを活用した方法により短いサイクルで結果が得られ、学習の手応えを実感しやすく、成功経験の蓄積につながった。11月には、これまでの学びを生かして勤労感謝の日にちなみ、押し花を使った感謝の手紙を作成し、保護者へ想いを伝える活動へと接続した。相手を想って言葉や装飾を選ぶ経験を通し、「誰に・何を・どうやって伝えるか」を経験した。しかし一方で、選択理由の言語化が弱く、色や形、配置を「なんとなく」で即決して後から困り感が生じる場面があったり、工程が増えると見通しが崩れ、ペース調整や手順の再設定が難しくなったりした。そして、活動の途中で「誰に届けるのか」「どう伝えるのか」といった目的や相手意識の持続が薄れやすいことが課題として見られた。

そこで本単元では、春から親しんできた押し花を土台にしなが、卒業していく3年生に“感謝を伝える”という想いを大切にした活動を設定した。3年生へのアンケートで知った「好きな色」を基に台紙を彩り、その台紙を花形に切って自分の押し花を貼り合わせる等、相手を思い浮かべながら作品づくりを進めていく。これまでの経験をいかし、3年生の好きな色に合わせて彩色したり、花の配置を自分で工夫したりして、見通しの再設定や相手意識の持続といった課題に取り組みながら、自分で考えて進める力を育てていきたい。そして、「感謝の手紙づくり」では、前回学習した家族への感謝の手紙づくりの経験を生かし、自分自身が漉いた紙に3年生へのメッセージを書くことで、想いを“ことば”として相手に伝える経験につなげる。文章を作成する時は、これまで課題となっていた「誰に・何を・どう伝えるか」という目的意識の持続を促すために、具体的なエピソード想起や語句の選択を段階的に支援し、生徒一人一人が自分の言葉で感謝を表現できるようにする。花束と手紙を自分の力で仕上げ、卒業する3年生に直接手渡すという一連の活動を通して、「相手を想いながら行動すること」や「自分の学びを形として届けること」の喜びを実感できることを期待している。

4 単元の目標

- ・花束と手紙づくりに必要な材料・道具の安全な扱い方と作業工程を理解し、一人一人に応じた方法で制作する。
「知識・技能」
- ・3年生の好きな色(アンケート結果)を生かすために、色の選び方や台紙の形・押し花の配置を工夫しながら仕上げる。
「思考・判断・表現」
- ・贈る3年生との具体的なエピソードを想起し、感謝の気持ちを伝える言葉を考えたり選んだりして、文章を考える。
「思考・判断・表現」
- ・感謝の気持ちを伝えるために、贈る相手を意識して工夫を考え、最後までやり遂げるとともに、できたことを振り返って次への意欲につなげようとしている。
「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

- 「3年生ありがとう！！～感謝の気持ちを込めた花束と手紙づくり～」……………全22時間
- 卒業する3年生に贈るプレゼントを考えよう……………2時間
- 花束を作ろう（台紙彩色・花形カット・押し花貼り付け・レース貼り等）…9時間（本時7/9）
- 感謝の手紙を書こう（紙漉き・押し花でデコレーション・手紙を書く等）……………7時間
- プレゼントを完成させて渡す練習をしよう……………2時間
- 3年生お別れの会……………1時間
- 振り返り……………1時間

6 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・花づくりの工程を理解し、必要な物品を安全に扱って花を制作する。 「知識・技能」
- ・3年生の好きな色をいかし、色・形・配置を工夫して花を仕上げる。 「思考・判断・表現」
- ・活動の見通しをもって取り組み、完成後に工夫した点を振り返り、次の活動への意欲につなげる。 「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標(学部の名簿イニシャル)

生徒名	本時の学習目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール提示(開始・途中・終了)を確認しながら、必要物品を自分で整え、相手の好きな色を取り入れた押し花を台紙に貼付し、片付けまで時間内にやり遂げる。 ・貼付前に押し花の位置関係を一度見直し、向きや角度を一つ整えて仕上げる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の支援を受けながら、見本と工程カードを確認し、押し花を仮置き→確認→貼付の順で貼り付ける。 ・完成後、MetaMoji アプリ内で自分の工夫点を一つ選択し、続けて「また作る/次もがんばる」等のイラストを選んで次の活動への気持ちを表す。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・図示された配置例を参照し、ピンセットやのりを安全に使い押し花を所定の位置に貼付する。 ・貼付前に押し花の位置関係を一度見直し、向きや角度を一つ整えて仕上げる。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・図示された配置例を参照し、ピンセットやのりを安全に使い押し花を所定の位置に貼付する。 ・工程カードを見ながら、貼付前に配置のまとまりを一度確かめ、自分なりの工夫点を一つ取り入れて仕上げる。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考え、好きな色を取り入れた押し花を台紙に貼付して花を完成させる。 ・花の見本を見て、3年生の好きな色に合う色を自分で選び、貼付前に仮置きをして配置を見直した上で押し花を貼り付ける。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・工程カードを参考にして、押し花を裂かないように保護紙からいねいに剥がして台紙にのせ、ピンセットを安全に用いて所定位置へ仮置き・貼付する。 ・貼付前に押し花の位置関係を見直し、向き・角度・重なりを自分なりに工夫して整え、より美しい配置に仕上げる。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
7分	1.はじめのあいさつをする。 2.本時の活動内容や目標を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長(E)に号令をかけるよう指名し、前を向いて姿勢を整えられるように教員がモデルを示す。 ・活動の見通しがもてるように、生徒の言葉でスケジュールや花の作成動画を説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">目標:3年生に喜んでもらえる花を作ろう</div> ・贈る相手の好み反映される等、生徒が多様なアイデアを生み出せるように、花のデザイン例を示した複数の見本を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や情報カード、スケジュールや動画に注目している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や活動内容が分かるように提示できたか。
22分	3.花を作る。 ①押し花等、必要な物品を机の上に準備する。 ②台紙に押し花を貼ったり、モールを貼ったりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分で準備できるように、必要な物品を後方の机にセットしておく。 ・「貼り直しが可能であること」や「やり直しのための予備材料があること」を伝え、押し花の配置を試行錯誤できる環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物品の不足に気づいたり、押し花の配置を工夫して貼り直したりする等、よりよい仕上がりを目指し、自 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的、主体的に活動できる環境を整えたか。

	③完成した花を写真に撮り, MetaMojiアプリに貼り付ける。 ④片付けをする。	・配置や色の工夫や試行錯誤ができるように, 完成イメージの提示や途中確認の問いかけを行う。 ・生徒がタブレット端末を使って写真を撮れるように, 操作面や言語面での支援をする。	分で判断して制作している。 ・完成イメージや相手に関する情報に注目し, 配置や色の工夫を取り入れようとしている。	・完成イメージや贈る相手の情報を提示し, 工夫や試行錯誤を促す支援ができたか。
10分	5.本時の振り返りをする。 ①画面に映し出された完成した作品を見て, 自分が工夫した点や良かったところを一言で発表する。	・達成感を共有できるように, 完成した花束を一人ずつテレビ画面に映し, 工夫した点や素敵などところを一言で発表する場を設定する。 ・生徒がタブレット端末のMetaMojiアプリを活用して授業の感想を入力できるように, 操作面や言語面での支援をする。 ・文字入力が難しい生徒に対して語群やイラストをあらかじめ用意することで, 選択形式で振り返りができるようにする。 ・次時へ向けて期待感をもてるように言葉かけをする。	・自分ができたことや工夫したことを振り返っている。	・達成感を共有できる場を設定し, 語群やイラストを用意することで, 振り返りが可能な環境を整えられたか。
1分	6.終わりのあいさつをする。	・委員長(E)に号令をかけるよう指名し, 前を向いて姿勢を整えられるように教員がモデルを示す。		

8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」 についての関連

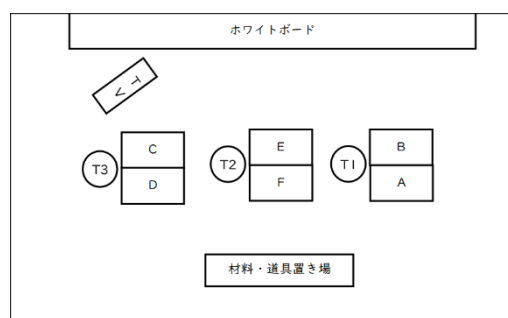
(1) 本単元は, 卒業する3年生へ感謝の気持ちを伝えることを目的に据え, 押し花・台紙・レース・茎(モール)を重ねて一輪の花を形づくる制作を中心に展開する。活動の中で, 工程カード等を用いて見通しをもつ, 色・形・配置を自ら選ぶ, 完成後に振り返るという主体的な学びの循環を意図的に組み込む。

STEAMIC の各視点は以下の通り授業に位置づける。

(2) 本単元の STEAMIC の捉え(単元:◎ 本時:★)

	視点	活動内容	各教科等との関連
S	ものの変化を体験しよう	◎押し花の乾燥による色・質感の変化, 紙漉きの繊維のからみを確認, 素材の扱いを知る。	理科 美術科
T	用途に合わせて道具を使おう	◎★はさみ・のり・ピンセット・モール等を用意に合わせて安全に使い, 自分い合う方法で丁寧に作業を進める。	職業・家庭科 数学
E	手順に沿ってやってみよう より良いものを作ろう	◎★工程の設計と, 滞りがあった際の整え直し(再設定)を行う。 ★台紙→レース→押し花→茎の工程を設計し, 途中の手順・ペースを整え直す。	美術科 職業・家庭科
A	様々な表現方法を体験しよう	★3年生の好きな色や具体的なエピソードをもとに, 色・配置に思いを託して表現する。	美術科
M	比べてみよう	◎★押し花の枚数や間隔, 重なりや大きさ等を考えて作成する。	数学科
IC	仲間によさや違いに気付こう	◎★卒業生の中から“○○さんのために作る・渡す”という相手を設定し, 制作やメッセージ作成に取り組む。 ◎★役割分担したり声をかけ合ったりして協働し, 相手に伝わる形に整える。 ◎★相手設定を共有し, 材料の受け渡しや声かけ等協働を取り入れる。	自立活動 美術科 職業・家庭科

9 教室環境図



生活単元学習 学習指導案

授業日時: 令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)
対 象: 中学部2年6名
場 所: 中2教室
授 業 者: T1 吉田 友美
T2 前野 宗孝

T3 楠 光

I 単元名・題材名

「中2プレゼンツ ~たのしもう!どきどきお別れ会~」

G:ASD S-M社会生活能力検査9歳10か月(2024.4) 太田ステージⅢ-2(2025.5)
・見通しのもちにくさや失敗することへの不安感などから、活動への意欲が安定しにくい面がある。繰り返し学習することにより不安感が軽減され、意欲的に参加できる場面が増えてきた。 ・手先が器用で意欲的に制作活動に取り組むことができる。 ・恥ずかしさ等により、不適切な言葉遣いになる場面があるが、友達や教員に対する思いやりがあり、協力しながら活動することができる。
H:(対象生徒)ダウン症候群 S-M社会生活能力検査5歳5か月(2024.4) 太田ステージⅢ-2(2025.5)
・初めてのことや見通しのもちにくいことへの苦手意識が強い。 ・マイペースな様子が目立ち、切り替えができず集団のペースに遅れることがある。 ・制作活動における話し合いの中で、自分の考えを発言することができ、他者からの意見も少しずつ受け入れられるようになってきた。 ・素材や道具によって触ることを嫌がる場面が見られるが、手袋をする等の工夫で参加できることもある。
I:ASD S-M社会生活能力検査7歳11か月(2024.2) 太田ステージⅤ以上(2025.5)
・自分と他者を比較しがちで、時に物事に対してネガティブな言動が見られる。 ・自分の思いや考えを表出することに時間がかかっていたが、受け入れられる経験を経て自分の意見を伝えられるようになってきた。 ・手順書などを手掛かりに丁寧に制作活動に取り組むことができる。 ・活動内容に興味・関心をもっているときには、友達と自発的に協力・分担して活動に参加できることが多い。
J:ASD S-M社会生活能力検査4歳10か月(2024.2) 太田ステージⅢ-2(2025.5)
・感情にムラが無く、落ち着いて学校生活を送ることができる。 ・全体指導では活動内容の理解が不十分な場合があるが、個別に確認すると理解することができる。 ・手順の理解に支援と時間を要するが、手先が器用で意欲的に制作活動に取り組むことができる。 ・友達と一緒に集団活動に参加することができる。
K:ASD S-M社会生活能力検査7歳7か月(2024.4) 太田ステージⅢ-2(2025.5)
・自身の体調の変化を感じたり伝えたりすることや、感情のコントロールをすることが難しい。 ・心身に負荷がかかった際に言語での表出が難しいために、時に不適切な行動をとってしまうことがある。 ・活動のペースは速く、次に進みたい気持ちが強いが、集団に合わせて待つことができるようになってきた。 ・友達と活動を共にすることを好み、繰り返し取り組むことで、作業や制作の工程を理解して活動をすすめることができる。
L:ダウン症候群 S-M社会生活能力検査5歳5か月(2024.2) 太田ステージⅢ-2(2025.5)
・発語が不明瞭で伝わりにくさがあるが、積極的に友達や教員とコミュニケーションを取ろうとしている。 ・ポジティブな発言ができ、集団活動に意欲的に参加しようとする姿が見られる。 ・情緒に波があり、気持ちの切り替えに時間を要する場面が見られる。 ・制作活動では、制作工程を理解して意欲的に活動に取り組むことができる。

2 児童生徒の実態

本学級は男子4名、女子2名の計6名で構成されている。今年度、生活単元学習を通して、イベントを企画・開催する経験を重ねる中で、見通しをもって集団活動に参加したり友達と一緒に活動したりできる場面が増えてきた。

3 単元設定の理由

本年度「主体的な学び」に向かう生徒の育成を目指した授業づくりを、好きなことや得意なことを生かしたり、苦手なことに対する支援と配慮をしたりするという自立活動の視点を生かして取り組んできた。イベントの企画・運営は、興味があることや好きなこと・得意なことを取り入れやすく、且つ誰かのためにという相手意識を持てる設定である。また、学習の中で繰り返しを設定しやすく、見通しがもてることにより安心して試行錯誤できることにつながっている。このように、中2の生徒にとって「主体的に学べるしかけ」が取り入れやすい単元である。

自分たちの興味・関心のあることから考えたゲームを同じ学部の友達に楽しんでもらうため、制作活動を取り入れたり役割分担を工夫したりするなど、各自の得意なことを生かしながら授業を展開し、7月の夏祭りイベントを企画・運営した。その後、もっと色々な人に自分たちの企画を楽しんでもらいたいという意見が生徒から出たため、12月の学校祭では保護者や他学部の児童生徒を対象とした催しを実施した。この2回のイベントにより、「みんなで楽しめることは何か」を意識することや、友達と一緒に活動に取り組む中で意見を伝え合うことができた。また、学級のために自分にもできる役割があると感じられるような経験を重ねることができた。学習を通して、自分の考えを表現する力や友達の意見を受け止める態度、役割を引き受け遂行しようとする力が育ってきたことが感じられる。

2回の経験では自分たちの楽しみを基にイベントの企画・運営をした。それを発展させ、3回目のイベントとして、卒業する3年生に喜んでもらえるお別れ会の企画・運営を設定した。この単元を通し、2回のイベントの企画・運営し得た経験を生かし、生徒たちが試行錯誤しながらお別れ会のゲーム性や運営をよりよくする工夫を進めることをねらいとする。その課程を通して主体的に学ぼうとする態度の育成を期待している。

本時は、3つのグループに分かれてゲームの仕組みや道具の制作をする。それぞれの進行状況を最初と最後に共有することで、ともにお別れ会の成功に向けて取り組んでいる意識をもって活動できるようにしたい。さらに、グループで助け合いながら活動する中で、仲間とともに作り上げていく楽しさや達成感を得られるようにしたい。

4 単元の目標

- (1) これまでのイベントの企画・運営と生活経験とを関係付けながら、ゲームの道具を制作する。 「知識・技能」
- (2) 経験したことや想像したこと、様々な材料・道具などを基に、ゲーム性や運営方法をよりよく工夫する。 「思考・判断・表現」
- (3) 自分の役割を果たしたり級友と協力したりして、お別れ会の成立や成功に向けて活動に参加しようとする。 「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

- 「中2プレゼンツ ～たのしもう!どきどきお別れ会～」……………全25時間
- 自分達も3年生も楽しめる内容を考えよう(話し合い、アンケート、検索等)……………3時間
 - 必要な準備や計画をしよう(制作、話し合い、役割決め)……………15時間(本時 10/15)
 - やってみよう!よりよくしよう!……………4時間
 - 中2プレゼンツ ～たのしもう!ドキドキお別れ会～……………1時間
 - やってみてどうだったか振り返ろう……………2時間

6 本時の目標

- (1) 全体の目標
 - ・本時の活動内容を理解し、材料や道具を使ってゲームの道具を制作する。 「知識・技能」
 - ・自分たちが考えたゲームになるよう、面白さや難易度を試行錯誤して制作する。 「思考・判断・表現」
 - ・ペアで活動内容を確認し、自分の役割を理解し制作に取り組む。 「主体的に学習に取り組む態度」
- (2) 個人の目標

生徒名	本時の学習目標
G	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたゲームに合うよう、必要な材料を選んで制作する。 ・大きさ・丈夫さ・数等を工夫して制作する。 ・自身の担当ゲームの準備、制作、練習に主体的に取り組む。
H (対象生徒)	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けながら必要な道具と材料を使って制作する。 ・教員や友達に自分の表したいことを伝えながら制作する。 ・級友や教員と一緒に担当ゲームの準備、制作、練習に取り組む。
I	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの考えるゲームになるよう必要な材料を選んで、制作する。 ・大きさ・丈夫さ・数等を工夫して制作する。 ・自身の担当ゲームの準備、制作、練習に自発的に取り組む。
J	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けて、用途に合った道具で色を塗ったり、絵を描いたりする。 ・級友からの言葉かけを受けながら、制作する。 ・支援を受けて、級友や教員と一緒に制作に参加する。
K	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を受けながら必要な材料と道具を使って制作する。 ・級友からの言葉かけを受けて、制作する。 ・級友や教員と一緒に担当ゲームの準備、制作、練習に取り組む。
L	<ul style="list-style-type: none"> ・用途に合った道具を選んで、色を塗ったり、絵を描いたりする。 ・教員や友達に自分の表したいことを伝えながら制作する。 ・級友にすることを伝えて、担当ゲームの準備・制作・練習に取り組む。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
1分	1.挨拶をする。	・委員長(L)に号令をかけるよう促す。		
7分	2.本時の学習について の話聞く。 ・本時の目標を確認する。 ・前時までを振り返る。 ・本時の活動内容を知る。 ・役割を確認する。	・スライドに注目したり、前時までの活動を想起したりできるように、必要に応じて言葉かけや指さしを行う。(T2・T3)	・テレビ画面やホワイトボードに注目している。 ・質問に挙手で答えている。	・活動内容が分かり、目標を意識できるように提示できたか。 ・場面に応じた言葉かけや指さしの支援ができたか。
22分	3.ペアに分かれて制作をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 生徒が思い描くアイデアを引き出したりつなげたりする言葉かけをしたり、選択肢を提示した </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の役割の理解が不十分な場合は、ホワイトボードを指さして確認を促す。 ・タイマーを用いて、制作活動の時間の終了を知らせるよう設定しておく。 ・必要な道具を、それぞれをかご等にまとめておく。 ・道具や材料の選択や制作の様子を見守りながら、必要に応じて言葉かけを行ったり、見本を示したりする。 ・タイマーの合図で使用した道具や制作物を片付けるよう設定しておき、手が空いている生徒には、周りの様子を見るよう促し協力できるように言葉かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の役割を理解して活動に取り組んでいる。 ・タイマーを手がかりに、活動の切り替えをしている。 ・使用した道具や景品を、最後まで片付けようとしている。 ・周りの様子を見て、協力しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標や役割等をわかりやすく提示できたか。 ・タイマー音での活動の終了について告知できたか。 ・ペアの友達や周りの様子に気付いて行動できるような言葉かけをすることができたか。
9分	4.振り返りと次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の進捗や感想を聞き、工夫した点等の生徒からの発言や頑張りについて評価する。 ・次時の活動について目標を確認し、期待感がもてるよう言葉かけを行う。 	・積極的に感想を述べたり、自己評価をしようとしていたりしている。	・活動に対する各自の頑張りや、発言に対してポジティブに評価することができたか。

				・次時への期待感をもって るような言葉かけができたか。
1分	5.挨拶をする。	・副委員長(K)に号令をかけるよう促す。		

※ 児童生徒の目標達成に向けた、課題発見や課題解決への気づきを誘発するような仕掛けや工夫等を指導・支援上の留意点

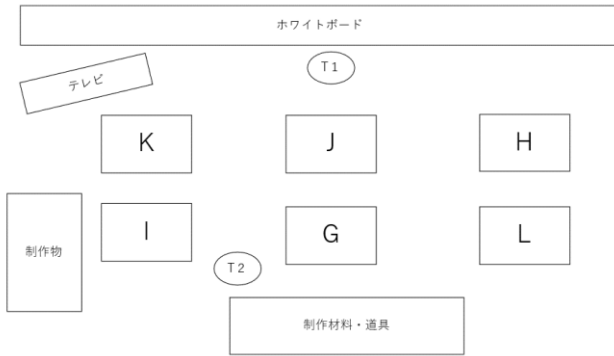
8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」についての関連

本単元では、これまでのイベントの経験を生かして、自分たちが楽しめる内容で、且つ招待する対象(3年生)にも楽しんでもらうことを基としたお別れ会を企画する。ゲームの内容やゲームの数・仕組み等をこれまでの振り返りをしながら話し合い、6人個々の得意を生かし、互いの苦手を補い合える学習形態を設定している。また、ゲーム性などについて、自分の意見やアイデアを出し合う活動、興味のあるゲームを形にできるか試す活動、やってみたいこと・興味のあることの中から実現可能な内容を選ぶ活動等、協同的に試行錯誤する課程を通して生徒一人ひとりが自分の考えを表現しやすくなるよう単元構成を工夫した。制作過程においては、磁石の性質を利用すること(S)や、磁力の強さ・種類、紐の長短・物の個数など、制作過程で試して比べる(M)ことで、自然と変更・追加・改善に取り組む(T)ことができる内容とした。話し合いを通して友達のアイディアの面白さや良さに気づき(IC)配色・ゲーム性等を考え工夫し(A)、お別れ会の成立や成功に向けて友達と役割分担や協力することで、自分の役割への責任感を持ち友達と協同することの楽しさを感じてほしい。STEAMICの視点で授業を設計・展開させることで、生徒自身が「こうしてみたい」「こうしたらどうなるだろう」「楽しいと感じてくれるだろうか」と内発的な問いをもち、主体的な学びを育む土台が築かれていくことを期待している。

本単元の STEAMIC の捉え(単元:◎ 本時:★)

	中学部の視点	活動内容	各教科等との関連
S	・ものの変化を体験しよう	◎★磁石の性質に気づいたり、性質を利用して制作したりする。	理科
T	・用途に合わせて道具を使おう	◎タブレット端末を用いてアイデアを調べたり、アンケートをとったりする。 ★制作のための道具選びをする。	職業・家庭科 美術科
E	・手順に沿ってやってみよう ・よりよいものを作ろう ・行動デザイン	◎これまでの催しを振り返り、ゲーム性や仕組みを考え振り返る中で出たアイデアを基に制作する。 ◎★制作する中で、変更・追加など改善に取り組む。	理科,美術科
A	・様々な表現方法を体験しよう	◎配色・ゲーム性等、明るい雰囲気になるよう考える。 ◎どんなお別れ会にしたいのかを意識し、雰囲気づくりや説明の仕方を工夫する。	美術科,国語科
M	・比べてみよう ・数字で表そう	◎★磁石の強さ・種類、紐の長短・物の個数など、制作過程で試して比べる。	数学科,理科
IC	・仲間のよさや違いに気づこう	◎★お別れ会の成立や成功に向けて、友達と役割分担や協力をする。 ◎話し合いを通して友達のアイディアの面白さや良さに気づく。	社会科,国語科

9 教室環境図



*制作活動中はペアに分かれて制作を行う。

生活単元学習指導案

授業日時:令和8年1月31日(土)
2校時(10:00~10:40)

対象:中学部3年6名

場所:中3教室

授業者:T1松本浩明

T2小濱晃子

1 単元名・題材名

「誰かの好きをつくろう～ドリームズカムトゥルー～」

2 児童生徒の実態

クラス・グループの実態

本学級は、3年生6名で構成されている。スケジュールに沿って行動することや、期待される行動（お手伝いをする、挨拶をする、返事をする等）を理解し、実践しようとする姿が見られる。一方で、主体性の育成が今後の課題であることが考えられていた。しかし、日々の学校生活を通して「失敗してもいいから、まずやってみる」「自分で考えて動く」経験を積み重ねてきたことで、試行錯誤する場面が見られるようになった。

M：小頭症 S-M 社会生活能力検査3歳3か月（R7.1）太田ステージⅢ-2（R7.5）

- ・「～してから～する」といった因果的な思考に挑戦しようとする姿が見られる。
- ・教員との関わりが多く、安全面の配慮と教員との関係づくりに寄与している一方で、主体的な行動や試行錯誤の機会を制限している可能性がある。
- ・活動において、繰り返し反復することで見通しをもち言動が安定しやすい。
- ・具体的な手順や視覚的支援によって理解が深まる。ただし、生活年齢に応じた一般的なルール・マナーと、実際に理解できることには開きがあると考えられるため、柔軟な指導が求められる。
- ・テープを貼る等、シンプルな作業に没頭して取り組むことができる。

N：ASD S-M 社会生活能力検査9歳7か月（R7.1）太田ステージⅣ-前（R7.5）

- ・「～だけれども～する」といった論理的思考への挑戦が見られる一方で、「～ねばならない」という規範意識やこだわりが強く、対人場面では瞬間的に言葉を放ちやすく誤解を招く傾向がある。
- ・教員からの指摘に対して過敏に反応し即座に行動を修正しようとするが、指摘の内容を精査せずに瞬間的に行動してしまうことがあるので、指摘されたことを繰り返すことがあり、自己を振り返る力の弱さが推察される。
- ・活動中に周囲の状況を把握することが苦手で、集団と異なる動きや行動のペースのずれがみられる。
- ・手先が器用で、細かい制作物も作ることができる。

O：ASD S-M 社会生活能力検査5歳6か月（R7.1）太田ステージⅣ-前（R7.5）

- ・外界への関心をもちながらも、自分から他者に関わることはあまり多くない。教員の言葉かけには比較的受容的で、反応が返ってくることが多いが、自分の意志を示す表出（例：「こうしたい」「これをしたい」など）が限定的である。
- ・「どうすればいいのか？」と尋ねる場面が多く、指示待ちの傾向が強い。
- ・自己刺激行動（指を弄る、目を顰める等）や感触へのこだわり（鉛筆や消しゴムを触る）などが多く、生活の中でマイペースな様子が目立つ。そのため、集団のペースに遅れることがある。
- ・ゆっくりだが、丁寧に作業することができる。

P：【対象生徒】：ダウン症候群 S-M 社会生活能力検査6歳4か月（R7.1）太田ステージⅢ-2（R7.5）

- ・人との関係づくりが柔軟で、教員からの称賛もストレートに受け取ることができる。一方で、自分の意に沿わない他者の言動があった場合に、感情が高まりやすく、他者との対話を通じて気持ちを整理・共有するよりも、一方的な言動に至る場面が見られる。
- ・教員から提示された方法や手順を忠実に守る傾向があるが、教員からのアドバイスがあるとアドバイスを取り入れ試行錯誤する姿がみられる。
- ・自分の好きなことの想像を膨らまして制作していくことができる。

Q：ウェスト症候群 S-M 社会生活能力検査5歳5か月（R7.1）太田ステージⅢ-2（R7.5）

- ・人への関心が高いが、関わる人や方法は限定的である。特に教員との関わりを求めることが多く、過度に手助けを申し出ることがある。

<ul style="list-style-type: none"> ・生活面での困難はそれほど多くないと思われるが、自分で対応可能な場面においても承認や指示を待つ行動がみられる。 ・課題への取り組みにおいて「これで合っているか？」と確認を求める場面が多く、自己決定・自己選択する体験が十分とは言えないため、安心できる関係性の中で自己決定・自己選択する機会を学校生活で多く取り入れることが必要だと思われる。 ・制作に意欲的に取り組み、細かい作業よりも物を積んだり、運んだりと身体全体を使う制作が得意である。
R：ダウン症 S-M 社会生活能力検査 7歳1か月 (R7.1) 太田ステージIV-前(R7.5)
<ul style="list-style-type: none"> ・感情の起伏に対して自覚的でなく、些細な見通しのずれや、相手の反応のずれに強く反応し、感情の表出が激しくなる場面が見られる。ただし、感情の高まりは持続せず、教員などの他者の介入によって短時間で気持ちを切り替え、次の行動に向かうことが多い。 ・他者の言動を真似ようとする意欲もあることから、他者の良い行動を真似ることで教員の介入を減らし、主体的に気持ちを切り替え、次の行動に向かうための支援が必要である。 ・「～してから～する」から「～だけでも～する」への思考に挑戦していると思われる。 ・級友のことをよく見ており、制作時に誰が何をしているかを気にかけることができる。

3 単元設定の理由

主体的な学びを促すために、本学部では自立活動の時間に「よりよい自分像」を考える時間を設けた。これは生徒が、「どんな自分になりたいか」「どんなことができるようになりたいか」といった願いや目標を意識しながら学習に取り組むための土台づくりとして位置づけた。

そのために学級として、まず自分の好きなことを考え実現することが「どんな自分になりたいか」「どんなことができるようになりたいか」を具体的にしていく過程で必要であるだろうと考えた。生徒が自分の好きなことを通して学んでいくことができるような授業づくりを行い、各生徒の好きな事を踏まえ、授業の中でそれをいかせるような活動内容を構成してきた。

前単元「EXPO2025～私のすきを紹介します～」では、各生徒の興味・関心を起点に、好きなことや物をブース形式で表現し、「自分を表現する喜び」「人に自分の好きが伝わるうれしさ」を経験した。

次の段階として、自分の好きなことや得意なことを「他者のためにいかす」方向へ発展させることを目的に本単元を設定した。具体的には、認定こども園の園児に向けた「遊び道具づくり」を通して自分の好きなことや得意なことを活かして「何を作るか考える、作る、プレゼントして喜んでもらう」プロセスを体験的に学べるように単元を設定した。

事前に園児が作ってほしいと思う遊び道具を考えアンケートを作成し、認定こども園を訪問し園児に遊び道具のアンケートから作成する遊び道具を決めてもらう。級友と協力しながらアンケートで決まった遊び道具を制作し、完成した遊び道具を園児にプレゼントする。プレゼントされた園児の様子から人に喜んでもらうことや、人の役に立つことを生徒が体験できるように計画した。

4 単元の目標

- ・園児の遊び道具を個々に合った方法や道具を用いて制作する。「知識・技能」
- ・自分の得意なことや好きなことを生かして、制作する遊び道具を考える。「思考・判断・表現」
- ・活動を通して、「級友と一つの物を作り上げる達成感」や「感謝されるうれしさ」を実感する。
「主体的に学習に取り組む態度」

5 単元計画

「誰かの好きをつくろう～ドリームズカムトゥルー～」・・・・・・・・・・全15時間
 どんな遊び道具を作ればいいのか考えよう・・・・・・・・・・6時間
 自分の好きなことを生かして制作しよう・・・・・・・・・・6時間（本時3/6）
 遊び道具をプレゼントしよう・・・・・・・・・・3時間

6 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・自分の制作内容が分かって制作する。「知識・技能」
- ・級友と役割分担をして制作に取り組む。「主体的に学習に取り組む態度」

(2) 個人の目標（学部の名簿イニシャル）

児童名	本時の学習目標
M	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された場所にシールまたはテープを貼る。 ・教員や級友からの言葉かけに应答する。
N	<ul style="list-style-type: none"> ・制作中に必要に応じて教員や級友に協力を依頼する。

	・級友に声をかけたり、道具を手渡したり一緒に制作しようとする。
O	・一つの作業が終わった時に、短時間で次の作業に取りかかる。 ・教員や級友からの言葉かけに応答し、言葉かけの内容に応じて行動しようとする
P 【対象生徒】	・自分が制作する箇所を分かって制作に取り組む。 ・みんなで話し合いができるように級友に声をかけようとする。
Q	・自分の制作分担が分かって制作する。 ・教員や級友から協力の依頼に対応しようとする。
R	・完成イメージ図に沿って制作する。 ・級友に声をかけ一緒に制作しようとする。

7 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援上の留意点	評価の観点	支援の評価
5分	1. 挨拶をする。 2. 本時の学習内容とこれまでの学習内容を確認する。	・生徒の発言や活動を肯定的に捉えたり、見守ったりすることで、安心して考えたり伝えたりすることができるようにする。 ・学習内容をテレビ画面に表示することで、活動への見通しをもつことができるようにする。	・学習内容がわかっている。	・活動内容と学習内容の提示は適切だったか。
5分	3.制作のための学習環境を整える。 4.机, イスを移動する。 5. 制作の役割分担のミーティングをする。	・向かいあって制作できる場を設定することで、やりとりしながら制作することがしやすくなるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">各生徒の得意な作業表を掲示し、役割分担をする時の参考になるようにする。</div>	・作業表をもとに作業の役割分担をすることができている。	・各生徒の得意なことがわかる作業表になっていたか。
20分	6. 役割分担に基づいて、制作する。	・各生徒が「できる。」を実感できる様々な制作内容を用意しておくようにする。	・役割分担に基づいて制作している。	・制作内容は生徒に適していたか。
10分	7.本時のまとめをする (1) 本時の振り返りをワークシートに記入する。 (2) 記入内容を発表する。	・一人ひとりの学習を振り返り、がんばったことやできたことを級友と称賛し気持ちを共有することで、次時の学習への意欲につながるようにする。	・ワークシートを用いて本時でしたことを振り返えられている。	・ワークシートの記入時の教員の指導は各生徒にとって適切であったか。

※ 児童生徒の目標達成に向けた、課題発見や課題解決への気づきを誘発するような仕掛けや工夫等を指導・支援上の留意点

8 「主体的な学びと STEAMIC 教育」についての関連

前単元から STEAMIC 教育の視点をさらに取り入れた単元計画を意識した。具体的には、「園児が楽しめる遊び道具は何だろう？」という問いを単元の中心に据え、生徒一人ひとりが自分の「好き」「得意」を使ってその問いを解決しようとする学習過程を構成した。何を作れば園児が喜んでくれるのか想像し、遊び道具のアイデアを出すこと、安全に遊べる素材を選び設計をすること、級友と協同制作することといった活動は STEAMIC 教育の要素と結びつくように設計している。

本時を通した STEAMIC の視点 (単元：◎ 本時：★)

視点	活動内容	各教科等との関連
S (ものの変化を体験しよう)	◎素材の特性を知る。	美術
T (用途に合わせて道具を使おう)	◎★制作に必要な道具を、用途に合わせて使う。	理科 職業家庭

E (手順に沿ってやってみようよりよいものを作ろう)	◎園児が無理なく遊べる仕組みや、安全で丈夫な作りを考える。 ◎★自分たちで考えた手順に沿って制作する。	理科
A (様々な表現方法を体験しよう)	◎園児が興味をもつデザインや色づかいを工夫する。	美術
M (比べてみよう数字であらわそう)	◎園児が遊びやすい大きさや形を考える。	数学
IC (仲間のよさや違いに気付こう)	◎★級友が好きなこと、得意なことが生かせる役割分担をする。 ◎園児に遊び道具をプレゼントした時の気持ちを、級友と共有する。	自立活動 職業家庭

9 教室環境図

